

幕末政変の謎を解 く、桑名歴史散歩



荒 昭弘 Akihiro Ara

幕末の動乱から戊辰戦争へと展開する政変について、起きた事象を時間の経過とともに理解することは出来る。しかし同時に私にはいつもある疑問が浮かんでくる。それは、なぜ薩摩藩はああまで執拗に徳川及び旧幕臣を滅亡へ追い詰めようとしたのか？という疑問である。意外にも桑名にその答えがあった

「幕末政変の謎を解く、桑名歴史散歩」

荒 昭弘

目次

- 一 序「幕末政変の謎」とは
- 三 木曾川、長良川、揖斐川
- 四 お庭番（密偵）の情報
- 五 悲劇の堤防
- 六 鳥頭坂（うとうざか）峠の血戦
- 七 詐欺、収奪、密輸、ニセ金
- 八 再び桑名へ、「キッチン寿」

1. 序「幕末政変の謎」とは

幕末の動乱から戊辰戦争へと展開する政変について、起きた事象を時間の経過とともに理解することは出来る。しかし同時に私にはいつも疑問が浮かんでくる。それは、なぜ薩摩藩はあままで執拗に徳川及び旧幕臣を滅亡へ追い詰めようとしたのか？という疑問である。

自ら倒幕の兵をおこした長州についてはわかりやすいが薩摩の動機についてはわかりにくい。しかも薩摩のあくなき徳川への敵意がなければ明治維新と言う大事業が完結しなかったのではないかとも思えるほどである。

そのような幕末政変の謎を解くために、三重県桑名市をめぐる歴史散歩を試みたい。

2. 桑名、海の東海道

江戸から京都までの東海道五三次はすべて陸路だと思
い込んでいる人が多い。

しかし実は熱田（名古屋）の宮宿（四一番目）と桑名宿（四二番目）の間は海上が正式なルートである、言わば「海の東海道」である。この事はあまり知られていない。

例えば歌舞伎の忠臣蔵でも無視されている。元禄一四年三月江戸から赤穂に急を知らせに向かった萱野三平が途中五時間も船に揺られていた・・・では芝居にならないせいか、忠臣蔵では萱野三平は馬と早駕籠を乗り継いで、わずか四日で赤穂に着いた事になっている。もし萱野三平が船をさけて宮宿から陸路をとったとすると佐屋街道という脇道を迂回することになるが、それでも木曾川、長良川、揖斐川という3大川を

続きは
完成版で
お楽しみ下さい。